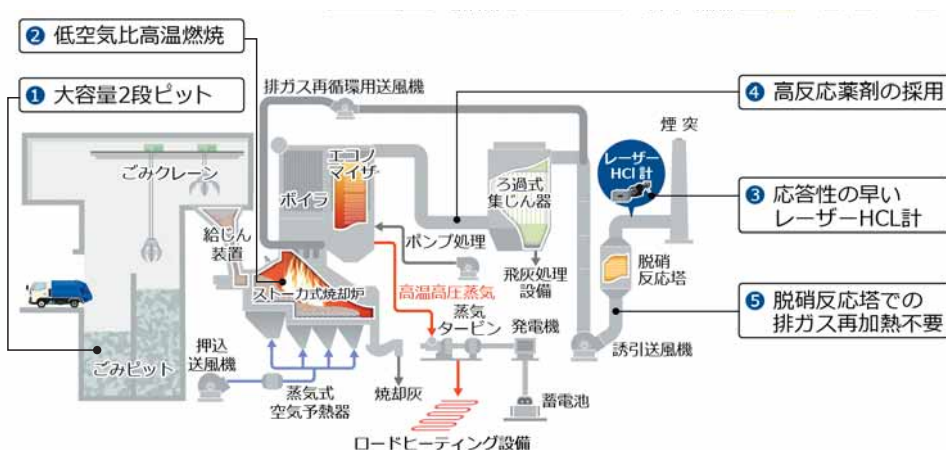


## 施設の概要

### ①周辺環境への対応

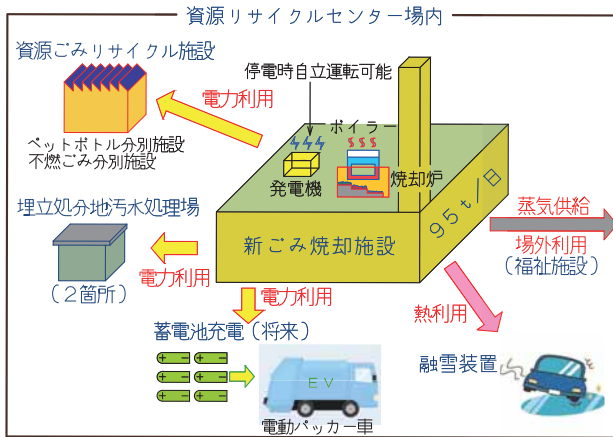
国内トップクラスの排ガス自主規制値を確実に守るため、さらに低い監視基準値を設けます。  
稼働に伴う悪臭や振動、騒音などに対しても環境規制値を守るとともに周辺環境への影響を可能な限り低減します。



### ②エネルギー有効活用など

#### 脱炭素社会への配慮

ごみの燃焼による熱を利用して発電を行い、施設内や近接する最終処分場などの電力に利用することで、電気使用量の低減やCO<sub>2</sub>の排出抑制に取り組みます。  
発電に使用しない熱は、近隣の老人福祉施設で利用したり、冬季の融雪に利用します。  
将来的には、施設で発電した電気を活用して、EVごみ収集車などの導入を検討します。



### ③安全、安心な施設

30年間の使用を見据え、特に重要度の高い焼却炉、ボイラ、排ガス処理設備などは耐久性が高い長寿命品を採用することにより安定稼働を実現します。

### ④環境学習機能

プラットホームや中央制御室などを自由に見学できるなど、「見る・触れる・考える・実践する」の4つの柱を意識しながらごみの減量化や脱炭素などに関する学習ができる場として整備します。



※イメージ図

### ⑤防災機能

震度7相当の地震に耐えうる設計や防災備蓄倉庫を設置し、災害時には最大160人を収容可能な避難所としての機能を確保します。

### ⑥建築計画

外壁は、清潔感あふれる白色をベースとし、自然豊かな周辺環境と調和するアースカラーを取り入れたカラーデザインとします。また、内装に地元産品の木材などを使い、温かみと潤いのあるデザインにします。

### ⑦施設運営

「ICカード」を利用した自動計量システムや「キャッシュレス決済」を導入し受付・計量時間を短縮することで渋滞抑制や利用者の利便性向上を図ります。

### ⑧工事中の安全、品質の確保 および工期の遵守

大型機器を工場で組立てるなど、現地作業を効率化し安全性や品質を向上させます。  
効果的な工法・仮設計画を積極的に採用し、安全かつ高品質な工事を行い、工期を守ります。

### ⑨地元企業との連携

ごみ処理施設の知見・ノウハウを持つ代表企業と、地域特有の知見・ノウハウを持つ地元企業が相互にサポートし合いながら事業に取り組みます。

今後、落札事業者と設計協議を行い工事に着手していきます。

現在、新施設を建設するための敷地造成工事に着手していますが、資源リサイクルセンターをご利用される皆様にご迷惑をかけないよう、十分に注意して工事を進めて参りますので、ご理解とご協力をお願いします。